

いわて生活協同組合

社会活動・環境活動 報告書

2016年版

2015年度いわて生協の事業と活動

2015年度環境活動報告書



「コープ花巻あうる」オープン
(2015年7月)



組合員が23万人に
(2015年7月)



「コープフードバンク」岩手県内での提供を開始
(2015年7月より)



復興支援活動を継続

編集方針

いわて生協では、2007年から「社会活動・環境活動報告書」の発行を始めました。報告にあたっては、いわて生協の基本的な考えにそってすすめている事業・活動の内容を、その進捗状況とともに掲載しています。

現在、いわて生協がすすめている「2020年ビジョン」で掲げた「助けあい、支えあい、ともにつくるくらしの安心」の実現に向けて、どんな取り組みを行っているのか、活動の一部ではありますがみなさまにお伝えできれば幸いです。

◆報告対象期間

特に記載のない限り、2015年度（2015年3月21日～2016年3月20日）の内容です。一部、継続的な活動や将来の目標も報告しています。

◆発行

2016年6月（前回2015年6月、次回2017年6月予定）

◆Webアドレス

Webサイトでは、本報告書のほか、過去の報告書もご覧いただけます。

<http://www.iwate.coop/about/csr/>

本報告書に関するお問い合わせ先

いわて生活協同組合 広報室

〒020-0690 岩手県滝沢市土沢220番地3

TEL/019-603-8280 FAX/019-687-1117

協同組合について

定義 協同組合とは

協同組合とは、人びとの自治的な協同組織であり、人びとが共通の経済的・社会的・文化的ニーズ（要望）と願いを実現するために自主的に手をつなぎ、事業体を共同で所有し、民主的な管理運営を行うものです。

この協同組合の「定義・価値」は、1995年の国際協同組合同盟（ICA）100周年記念大会で、21世紀にむけて、世界の協同組合の指針として採択され、現在もその基礎となっているものです。

※定義と価値は、JC総研発行「新協同組合とは〈再訂版〉」より引用。

Contents 目次

〈社会活動報告〉

- 1 編集方針/目次/協同組合について
- 2 理事長あいさつ
- 3 いわて生協の成り立ち・事業概要
- 5 「がんばろう！岩手」支援活動報告
- 7 地産地消の取り組み
- 9 顔とくらしの見える産直運動
- 11 だれもが安心して暮らせる社会と地域をめざして
- 13 平和な世界と安心して暮らせる地域をめざして
- 15 店舗・共同購入事業
- 17 その他の事業

〈環境活動報告〉

- 19 環境理念/環境方針
- 20 地球温暖化防止の取り組みと結果
- 21 原子力発電に依存しない事業をめざす取り組み
- 22 持続可能な地域社会をめざして 2015年度のおもな取り組み
- 25 環境負荷とリサイクルフロー
- 26 環境活動のあゆみ

価値 協同組合にとって大切なものは

協同組合は、自分たちの力と責任で、民主的に、平等で公平に、そして連帯してものごとをすすめていくことを基本理念とします。また先駆者たちの伝統にしたがって、協同組合の組合員は、倫理的な価値観として、誠実でつつみ隠さず、社会的責任と他者への思いやりを持つことを信条とします。

ごあいさつ

「助けあい、支えあい、 ともにつくるくらしの安心」をめざして

未曾有の被害をもたらした東日本大震災と原発事故から5年が過ぎました。いわて生協も大きな被害・影響を受けましたが、全国の生協や団体から多大なご支援をいただき、また組合員・役職員が一丸となり、2年間で震災の被害を克服することができました。そして、2013年6月開催の第24回通常総代会で、今後の発展計画として「2020年ビジョン」、その実現にむけて「第7次中期計画（2013～2015年度）」を決定し、この3年間、取り組みをすすめてまいりました。

「2020年ビジョン」では、「急速にすすむ高齢化や過疎化、格差と貧困の広がりなど、社会の大きな変化の中で、『だれもが安心して暮らせる社会・地域づくり』にむけて、震災支援で学んだ『人と人とのつながり』『協同の力』に確信を持ちすすめていこう」と、めざしたい姿と3つの重点分野・課題を決めました。

この3年間、この3つの重点にそって、2つの新店、3つのセリオホールの開設、夕食宅配サービスの開始や高齢者見守り協定の29市町村との締結、高齢者にやさしい店づくりなど、くらしを支える事業が大きく前進しました。また、子育て世代の願いにそった活動も大きく広がったほか、復興支援の取り組みも、多くの組合員の参加と協力、全国の生協からのご支援で継続してまいりました。

一方で、私たちのくらしや地域、社会も大きく変化しました。安保関連法の成立・施行やTPP（環太平洋経済連携協定）の大筋合意、原発の再稼働など、これからの私たちのくらしと子どもたちの将来に大きな影響を与える政策が、多くの国民の反対の声を無視し次々と決められた3年間でした。また、消費税の増税や社会保障の負担増、実質賃金の4年連続の減少など、国民に負担を強いる政策により、格差と貧困はさらに広がり、生活困窮者、子どもの貧困も深刻な問題になってきています。また、高齢化や過疎化に加え、人口減少と高齢世帯・一人世帯の増加、認知症などの介護人口の増加が今後急速にすすむ中で、介護や老後のくらしへの不安とニーズがさらに高まっています。震災からの復興も長期化し、被災地・被災者の問題も複雑化・深刻化してきております。

こうした社会の大きな変化と組合員の願い、第7次中期計画の到達点などを踏まえ、「2020年ビジョン」を見直し・補強し、その具体化計画としての「第8次中期計画(2016～2018年度)」を決定しました。これまで以上にくらしや地域の問題に目を向け、各事業と活動の連携を強め「だれもが安心して暮らせる社会・地域づくり」「生涯をとおしてくらしを支える事業と活動」をすすめてまいります。

「2020年ビジョン」の最終年度である2020年度は、『お母さんたちがつくる地域生協』が岩手県に誕生して50年、またいわて生協が誕生して30年という節目の年です。私たちの「協同」の力をさらに強め、新しい「2020年ビジョン」のもと、「助けあい、支えあい、ともにつくるくらしの安心」を掲げ、これからの5年間の取り組みを着実にすすめてまいります。いっそうのご支援、ご協力をお願い申し上げます。



いわて生活協同組合
理事長 飯塚明彦

いわて生協の 成り立ち・事業概要

いわて生協が誕生して25年—。
県内世帯の45%が組合員と、
その輪は着実に広がっています。

「盛岡安く牛乳を飲む会」から 「生協」へ

1969年、一方的な牛乳の値上げに反対し、盛岡市上田地区のお母さんたちが「盛岡安く牛乳を飲む会」を設立し牛乳の共同購入を始めました。400世帯1千本から始まった牛乳の共同購入は、卵の共同購入、サリチル酸の入らない清酒を直買する運動にも発展し、お母さんたちの仲間づくりにより急速に広がりました。そして、コープ商品や生協運動の学習を積み上げ、同年お母さんたちがつくる地域生協「盛岡市民生協」が誕生しました。

■数字で見るあゆみ

●組合員数

1990年度 (誕生時)	8万8,166人
2000年度	13万7,567人
2005年度	17万9,555人
2010年度	19万9,279人
2015年度	23万3,208人

●出資金

1990年度 (誕生時)	13.1億円
2000年度	36.4億円
2005年度	56.7億円
2010年度	69.4億円
2015年度	82.5億円

●供給高

1990年度 (誕生時)	184.1億円
2000年度	372.9億円
2005年度	363.9億円
2010年度	352.8億円
2015年度	386.2億円

その後、釜石市や北上市、大船渡市にも地域生協がつくられていきました。

1990年3月、 「いわて生協」が誕生

県内5つの地域生協と、学校生協宮古地域が合併・合流し、1990年3月21日に「いわて生協」が誕生しました。「1. ますますきびしくなる組合員のくらしを守り、より豊かなくらしを実現していく、2. そのためにも競争に負けない力強い生協をつくっていく、3. 停滞する岩手の経済や、過疎化・高齢化がすすむ地域社会に役立つ生協をつくっていく」ことをめざしてスタートしました。



1990年4月27日、「第1回いわて生協通常総代会」を開催。9つのコープ（地域）から、17人の組合員を初代理事として選出。

2020年ビジョン～私たちのありたい姿～ 「助けあい、支えあい、ともにつくるくらしの安心」



- 1 私たちは、ふだんのくらしにいっそう役立つ事業を広げ、生涯をとおして組合員のくらしに役立つ生協をめざします。
- 2 私たちは、だれもが安心して暮らせる社会と、人と人とが支えあいつながる地域づくりをめざし、「明るく！元気に！楽しく！感動する活動」をすすめます。
- 3 私たちは、協同のすばらしさに確信を持つ常勤者をつくり、地域から信頼され、評価される生協をめざします。また、組合員のくらしの願いにこたえるために、健全経営を維持発展させます。

2015年度の事業・決算概要

2015年度は、「第7次中期計画（2013年～2015年度）」の最終年度として、花巻市への初の店舗「コープ花巻あうる」オープン、夕食宅配サービスの沿岸地域への拡大などを着実にすすめました。供給高は386億円と予算には届きませんでした。最終的な当期剰余金は予算を上回る1億7千万円を確保し、昨年に引き続き組合員への出資配当を実現することができました。

■いわて生協のプロフィール ※すべて2015年度末（2016年3月20日）の数字です。

組合員数	23万3,208人	世帯加入率	45%
出資金	82億5,831万円	供給高	386億2,565万円
共同購入利用人数	7万7,032人	常勤者(職員)数	2,011人

※個人宅配を含む。



◆店舗

- ・ベルフ八幡平
- ・ベルフまつぞの
- ・ベルフ仙北
- ・ベルフ西町
- ・コープアテルイ
- ・ベルフ牧野林
- ・ベルフ青山
- ・マリンコープドラ
- ・コープチェリオ（宮古病院内）
- ・コープ一関コルザ
- ・コープ高松
- ・ベルフ山岸
- ・コープ西ヶ丘
- ・コープ花巻あうる



■共同購入センター

- ・久慈センター
- ・盛岡南センター
- ・宮古センター
- ・いのへセンター
- ・花北センター
- ・釜石センター
- ・盛岡北センター
- ・県南センター
- ・けせんセンター

事業概要

店舗事業（14店舗）、共同購入事業（9共同購入センター）、共済事業（1共済センター）、葬祭事業（8ホール）、介護・福祉事業（1事業所）、住まいと暮らしのサービス事業
 関連会社/コープトラベルいわて、(株)コープ東北保険センターいわて支店

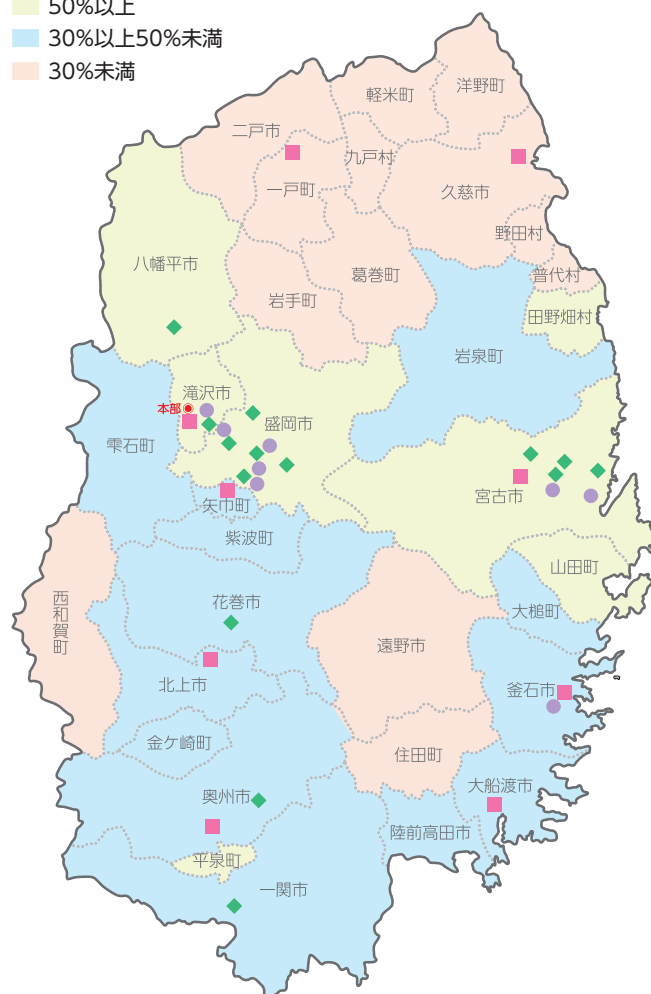
■事業所と世帯加入率

事業所

- ◆ 店舗
- 共同購入センター
- 葬祭会館

世帯加入率

- 50%以上
- 30%以上50%未満
- 30%未満



●葬祭会館

- ・セリオホール牧野林
- ・セリオホール中野
- ・セリオホール磯鶏
- ・セリオホールみたけ
- ・セリオホール仙北
- ・セリオホール釜石
- ・セリオホール緑が丘
- ・セリオホールみやこ

「がんばろう！岩手」 被災地に寄りそった 支援活動を継続

「2020年ビジョン」のもと、被災地と組合員の要望にそった支援活動と震災を風化させない取り組みを継続しています。

■支援活動のおもな取り組みの状況

	支援内容	2015年度	支援開始からの累計
買物支援	移動店舗「にこちゃん号」	7万9千人	30万8千人
	無料お買い物バス	6,910人	2万5,435人
	共同購入「復興支援サービス」	6,429人	—
生業支援	復興応援商品	5億3千万円	16億6千万円
	被災グループ等 手作り品	665万円	3,994万円
組合員活動	ふれあいサロン	594回 4,501人 (ボランティア 2,660人)	2,427回 2万1,559人 (ボランティア 1万1,399人)
	バスボランティア	15回500人	164回5,868人
	リフレッシュツアー	24企画642人	114企画3,463人
	グループ活動補助	46グループ 331回 166万円	119グループ 1,070回 773万円
	カードプレゼント	6,605枚	3万9,600枚
	3行レシピ集	1万2,000部	2万9,500部
募金	組合員募金	1,007万円	1億6,366万円
	全国の生協からの募金、 助成金など	4,348万円	

※人数は、共同購入「復興支援サービス」を除き、すべてのべ人数です。

■2015年度の「復興支援募金」の活用状況

ふれあいサロン・昼食会	1,281万円
バスボランティア・年末食事会	268万円
リフレッシュツアーバス代	250万円
グループ活動補助	165万円
文化企画	73万円
その他(子どもの支援・DVD作製等)	386万円
小計	2,423万円
宮古市・山田町お買い物バス	1,223万円
総計	3,646万円
募金合計	5,355万円
2015年度残高	1,709万円

※募金には、全国の生協からの募金や助成金など4,348万円が含まれています。

買物支援 移動店舗「にこちゃん号」は、 75か所に拡大し、7万9千人が利用

組合員の募金と全国の生協からの支援で、2012年に3台、2013年に1台の計4台を導入。宮古市と一関市にある生協店舗から各2台が、それぞれ約600品目を積み込んで、宮古市、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市の仮設団地や災害公営住宅などへ訪問しています。

2015年度は、地域の要望や復興状況に合わせてコースを見直し、販売場所を58か所から75か所に拡大。年間7万9千人の方にご利用いただきました。



他の移動店舗が来なくなる中で「助かる」と喜ばれています。

買物支援 「無料お買い物バス」は 64か所の仮設団地をカバー

2012年7月から運行を継続している、宮古市・山田町の64か所の仮設団地と宮古市の店舗を結ぶ「無料お買い物バス」。2015年度はのべ6,910人にご利用いただきました。

買物支援 共同購入「復興支援サービス」は 6,429人が利用

カタログを見て買い物ができる共同購入。被災地（内陸避難者も含む）の個人宅配利用者を対象に配達手数料を優遇する「復興支援サービス」は、登録者が6,429人に増え、個人宅配利用者に占める割合は15%となりました。



決まった曜日に玄関先まで注文した商品をお届けする「個人宅配」。「復興支援サービス」は、配達手数料を1回93円（通常223円・いずれも税抜き価格）に優遇しています。

生業
支援

復興応援商品の利用普及は 5億3千万円に

被災メーカーの生業・仕事づくりを応援しようと、被災地の商品を積極的に取り扱いました。「産直真崎わかめ」など、被災メーカー・生産者の商品の利用普及や、「復興支援・地産地消フェスタ」の開催、マリンコープドラでの「復興商店」を継続しました。また共同購入では「復興応援・がんばろう東北」や「ふくしま応援ボックス」の企画などに取り組みました。



5店舗で開催した「復興支援・地産地消フェスタ」には、計8万6,500人が来場。沿岸からのべ79団体が出店。また、マリンコープドラでの「宮古復興応援生協まつり」には、沿岸から10団体が出店し、「利用してもらうことが励みになる」と喜ばれています。

生業
支援

手作り品販売を継続

被災者の生業づくり・生きがいに少しでも貢献しようと、仮設住宅のグループや団体、福祉作業所の手作り品などの販売を継続しました。2015年度は、食品を中心に取り扱い、3年ぶりに利用が増えました。



「コープ懇談会」など組合員が集まる会場で、「復興商店」を設置し、手作り品を販売。利用が高まりました。

被災地の子どもたちを支援

被災地の子どもたちを支援しようと、「岩手ビッグブルズ復興祈念試合」に宮古市の児童・生徒60人を招待、宮古市高浜小学校・千徳小学校、宮古商業高校で「バスケットボール教室」を開催しました。また、「コープ共済ナイター」に陸前高田市の小友町野球スポーツ少年団28人を招待、「高田道場ダイヤモンド・キッズ・カレッジ宮古大会」への協賛(160人参加)も行いました。

組合員
活動

※CVCには1,012人が登録

バスボランティアを継続し15企画に500人が参加したほか、「サロンキットづくり」企画に取り組み、沿岸地域での「ふれあいサロン」ボランティアが増えました。

※コープ・ボランティアセンターの略。「被災地に行ってボランティア活動をしたいが、個人での受け入れがない」との組合員の声をもとに、2011年6月にいわて生協が開設。

組合員
活動

「ふれあいサロン」は 要望に応え、開催数が増加

「ここに来ると楽しい」と笑顔が広がる「ふれあいサロン」。2015年度は、7市町村で71仮設・地域を対象に594回開催し、4,501人が参加しました。地域の要望に応え開催会場を増やしましたが、仮設住宅の入居者が減り、参加者は減りました。



仮設住宅がさびしくなる中で「ふれあいサロン」を楽しみにしている方も多く、今後も開催を継続していく必要があります。

組合員
活動

さらに広がった「食の支援」

料理を簡単につくれる「3行レシピ」は7~9集を発行し、1万2千部を配布。また、「ふれあいサロン」での昼食会を84回開催し、669人が参加。「みんなで食べるとおいしい」と好評です。

組合員
活動

「震災を忘れない」とりくみ

店舗では毎月11日を「震災を忘れない日」として募金の呼びかけや復興商品の利用おすすめに取り組みました。また、組合員活動では、被災地応援ツアーや被災地の現状を聴く会、DVD「被災地のいま」をみる活動(1万5千人参加)などに取り組みました。



「忘れないよ。いっしょにがんばろう!」の思いを届けようと、手作りのカードを贈る取り組みも継続しています。

地産地消の取り組み

地元の製造メーカーや組合員と
いっしょに、商品の開発、
普及をすすめています。

開発のコンセプト



できるだけ岩手県産の原料を使用し、岩手県内の
工場で製造（県内メーカーと共同開発）の高
品質の商品です。開発には組合員も参加し、味
や使い勝手などを確かめています。



添加物など、いわて生協の品質管理基準を満たし
ながら、より求めやすい価格を重視した商品です。

いわて生協オリジナルのアイコープ 商品の供給高は14億1,600万円に

アイコープ商品・アイススタイル商品は、いわて生協が
独自に開発・供給しているオリジナルの商品。できるだ
け岩手県産の原料を使用し、岩手県内の工場で製造（県
内メーカーと共同開発）し、開発には組合員も参加して
います。東日本大震災後は特に、「地場産品の利用を広
げることで、岩手を元気にしよう」と利用普及に積極的
に取り組んできました。

2015年度のアイコープ商品・アイススタイル商品全体
の供給高は、14億1,555千万円と、前年度より8,140万
円増加しました。

■2015年度のアイコープ・コープ商品実績 (2015年3月21日～2016年3月20日)

分類	部門供給高	アイコープ・ アイススタイル 商品供給高	その他コープ 商品供給高	コープ商品 構成比
①農産(野菜)	26億 775万円	3,031万円	—	1%
②水産	41億4,369万円	1億7,093万円	5億5,812万円	18%
③畜産	32億7,351万円	9,628万円	2億4,140万円	10%
④日配	68億1,546万円	9億8,590万円	13億3,407万円	34%
⑤米	4億6,372万円	978万円	—	2%
⑥食品類	27億8,478万円	9,791万円	9億5,995万円	38%
⑦菓子	29億3,942万円	1,040万円	5億8,538万円	20%
⑧酒	11億2,914万円	99万円	8,075万円	7%
⑨トイレットリー	8億4,784万円	1,154万円	1億9,076万円	24%
⑩生活用品	3億6,914万円	115万円	4,396万円	12%
①～⑩合計	253億7,445万円	14億1,555万円	39億9,439万円	21%

※酒・生活用品は、共同購入除きの実績です。

■55社と141品目を共同開発 (県外メーカー含む)

※2016年5月現在

府金製粉 県産小麦ホットケーキミックス、すいとん粉

肉のふがね しわ黒豚味付ホルモン鍋用

大塚製菓食品 南部切いた麩

小松製菓 南部せんべい

平安商店 県産大豆豆腐、県産大豆手揚げ、しらたき、つきこん

風月堂 クリスマスケーキ

大内商店 納豆

白石食品 食パン、スポンジケーキ、クリスマスケーキ

梅園・丸美屋 のし餅

戸田久 うどん、冷麺、ラーメン、冷やし中華、中華そば

中野製麺 餃子の皮

吉田銘茶 お茶

田老町漁協 根昆布入りとろろ

古須賀商店 味付茎わかめ、さんまみりん干し、わかめの佃煮

佐々長醸造 県産みそ、つゆ、超特撰県産大豆醤油、すき焼のたれ、だし入り県産みそ

JAいわて花巻 県産椎茸どんこ

エーデルフィン Kanau(赤・白)

オリオン カステラ、菓子パン、クリスマスケーキ

浅沼養鶏場 さくら卵の温泉たまご

青三 産直野菜の漬物・白菜キムチ

岩手畜産流通センター ウィンナー、バラベーコン、焼豚、味付豚ホルモンうめじゃ〜、とんかつ、国産豚ロースみそ漬け、ミニメンチカツ、焼ハンバーグ

岩手チキン工房 チキンナゲット

湯田牛乳公社 牛乳、ヨーグルト、のむヨーグルト、カフェ・オ・レ

山の幸王国 牛ふんたい肥くん

山平 のし餅

小山製麺 県産小麦粉、乾麺

パワー・ブレンド 鮭フレーク

平間製館所 つぶあん、こしあん

八木澤商店 焼肉のたれ

鈴木食品 にかり充填とうふ、油揚げ

オノデラ食品 すんだあん

上山製紙 わたしたちのリサイクルトイレットロール

アジテック 発芽玄米ひとめぼれ

斎藤食品 こんにやく

アジテック ラーメンスープ

岩清水食品工業 餃子

一野辺製パン 県産小麦とお米のパン、雁月

アイコープ・アイススタイル商品は 14品目を開発・改善

2015年度は、「めかぶ」「深むし茶」など11品目を開発し、「生乳でつくったのむヨーグルト」「餃子の皮」「Kanau」の3品目を改善しました。県内産の豚もも肉に味付けし焼き上げた「焼豚ブロック」は「焼豚（スライス）」の姉妹品として発売しました。



「復興支援・地産地消フェスタ」は 5会場に増え8万6,500人が来場

2015年度も、大震災からの「復興支援」を掲げ、各広域振興局の協力・参加をいただき、「地産地消フェスタ」を開催しました。ベルフ牧野林（滝沢市・6回目）、コープアテルイ（奥州市・8回目）、コープ一関コルザ（一関市・11回目）のほか、ベルフ八幡平とコープ花巻あうるの2会場で初開催し、計8万6,500人が来場しました。沿岸被災地からも多数出店いただき、出店者の復興へのがんばりが来場者に元気と勇気を与えました。5会場に240社・団体が出店し、商品の利用につながりました。



初めて開催したコープ花巻あうるの会場でも、沿岸をはじめ地元岩手のおいしいものを求めて、多くの方が来場しました。

マリンコープドラ「復興商店」 を継続

2012年6月にマリンコープドラ内に常設した「復興商店」を2015年度も継続。被災地のメーカーが製造する商品や福祉施設の商品、仮設住宅のグループなどの手作り品、復興支援団体の商品などを供給しました。

生協牛乳は産直40周年に

2015年度、生協牛乳は産直40周年を迎えました。「しぼりたての生乳のおいしさや、牛乳本来の風味や栄養がそのまま！」と組合員に愛され続けて40年。生協牛乳のキャラクター「あいちゃん」をパッケージに復活させ、側面には4回シリーズで「産直のあゆみ」を掲載しました。



コープ商品・産直品のよさと利用を 広める「ラスコープ・キャンペーン」

全国の生協といっしょにコープ商品のよさと利用を広げようと、2年目の「ラブコープ・キャンペーン」に取り組みました。「初夏のコープのつどい」では、リニューアルをすすめている日本生協連コープ商品について学習し、期待の声やおすすめコメントなどが653件寄せられました。「秋のコープのつどい」では、産直40周年の生協牛乳・真崎わかめを中心に、商品比で改めてよさを学習。組合員の利用で育て、支えていくことの大切さを確認しました。



生協まつりでも組合員・職員がいっしょにおすすめています。

地域の特産品を普及する取り組み

「みやこうまいもの市」は、盛岡地域の3店舗（ベルフ仙北・ベルフ青山・ベルフ牧野林）で計4回、「にしわが山の市場」はベルフ牧野林で2回開催しました。また、県南地方の障がい者施設で構成する「あべじゃネット」と岩手県県南地方振興局、いわて生協が共催し、生産品の販売や情報発信を行う「あべじゃネットフェア」は奥州市のコープアテルイで6回開催しました。



作り手が直接消費者（組合員）に商品をアピールできる場になっています。

顔とくらしの見える 産直運動

県内の生産者のみなさんと一緒に
農村漁業を守り食料自給率向上に
むけて取り組んでいます。

産直品の供給高は、25億円に

■2015年度の産直品実績 (2015年3月21日～2016年3月20日)

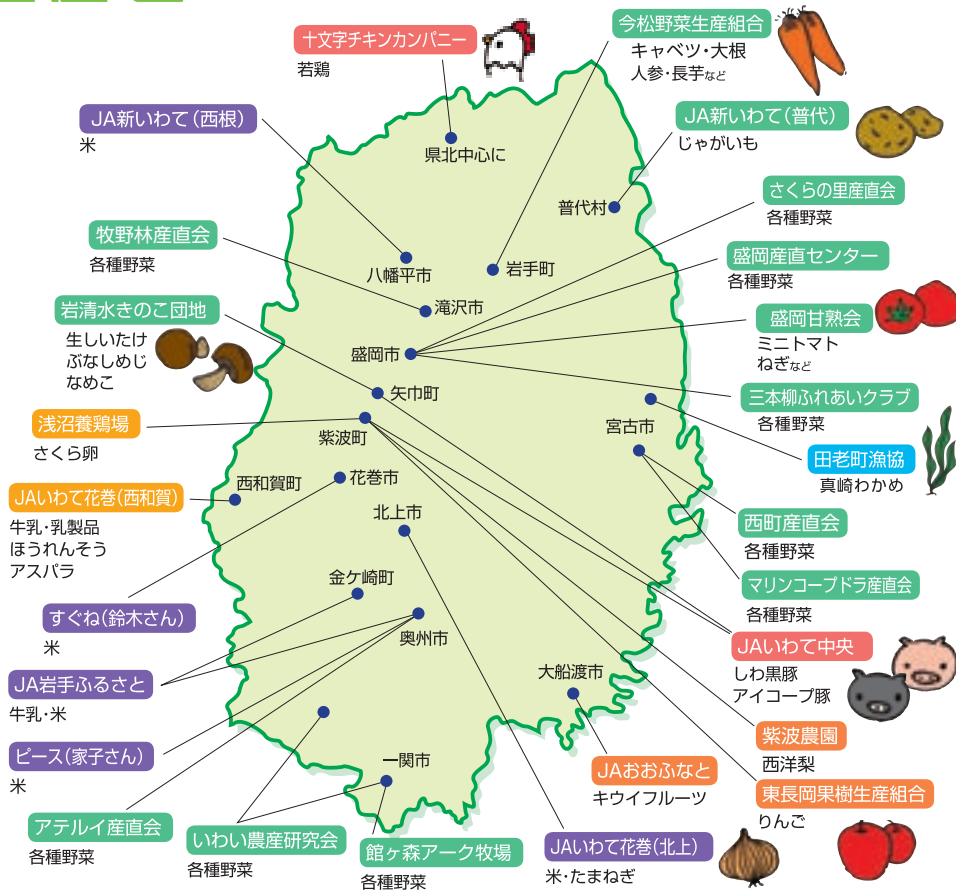
分類	部門供給高	産直品供給高	産直品構成比
①果物	13億6,491万円	4,934万円	4%
②野菜	26億 775万円	6億3,301万円	24%
農産(①+②)	39億7,266万円	6億8,235万円	17%
③水産	41億4,369万円	4,600万円	1%
④畜産	32億7,351万円	8億7,782万円	27%
⑤日配	68億1,546万円	6億6,341万円	10%
⑥米	4億6,372万円	2億3,253万円	50%
①～⑥合計	186億6,903万円	25億 210万円	13%

※農産(果物・野菜)は、県内の産直品(顔とくらしの見える産直品)の実績です。



■県内31産地と提携

※2015年5月現在



いわて生協の産直三原則

- 1 産地と生産者が明確であること
- 2 栽培、飼育方法が明確であること
- 3 組合員と生産者が交流できること

いわて生協の産直基準

- 1 組合員の参加を強め、組合員の願いを商品づくりに反映させます。
- 2 「地産地消」の取り組みを強め、岩手の農林水産業を守り発展させることに貢献します。
- 3 組合員と生産者が自立・平等の立場で、お互いに発展できることをめざします。
- 4 産地、生産者、生産・流通方法を明確にし、情報を公開します。
- 5 生産方法などを記録し、定期的に点検・検査を行います。
- 6 後継者育成や、環境負荷低減(農薬の削減など)を支援します。

■産直野菜は「農薬使用基準」を定めています

排除農薬 使用禁止する11農薬	排除目標農薬 排除に向けて計画的に努力する6農薬
NAC、ジメトエート、2.4PA、MEP、マンネブ、DEP、EPN、ジラム、チウラム、マラソン、クロルピクリン	キャプタン、ダイアジノン、ペノミル、パラコート、リニユロン、アトラジン

「産直真崎わかめ」は産直40周年！ 「新工場落成を祝う会」を盛大に

2015年5月、田老町漁協の新工場が完成し、産直40周年と合わせて「祝う会」を開催しました。新工場の見学や芯抜き体験なども行い、あらためて品質のよさを実感。組合員活動でのおすすりめもあり、2015年度は過去最高の26.5トン（目標25トン）を供給しました。



生産者・組合員・常勤者合わせて71人の参加で開催しました。

産地見学や交流会で学習し、 組合員から組合員へおすすりめ

組合員活動では、県内16コープ（地域）で特によさをお知らせしたい商品「これいいね！ラブコープ商品」を設定。産地見学や学習会・交流会、店舗「産直収穫祭」でのおすすりめ活動など、一年を通して積極的に取り組みました。コープ商品・産直品を使った料理教室など92企画に1,699人が参加、産地工場見学は50企画に1,101人参加と、前年度より参加が広がりました。



三本柳ふれあいクラブ（盛岡市）での野菜収穫体験には、盛岡南コープの組合員が参加。



「秋のコープのつどい」で商品をおすすりめ。全体で376件の利用登録（共同購入で定期的に配達されるしくみ）につながりました。

「産直収穫祭」を店舗・共同購入で展開

産直品のよさと利用を広げる「産直収穫祭」を、店舗は2007年度から、共同購入は2009年度から毎年開催しています。2015年度も店舗で年4回、共同購入では年3回実施。店舗では、組合員がおすすりめ活動にも取り組み、全4回合計で、供給高は前年比106.5%と利用が増えました。



「第4回産直収穫祭」では、盛岡中央コープの組合員が、ベルフ山岸（盛岡市）で真崎わかめをおすすりめました。

公開安全確認会 & 業務確認会を実施

産直品の栽培方法や飼育方法など、生産の約束事が守られていることを組合員もいっしょに確認する「公開安全確認会」。13年目となった2015年度も全31産地・提携先で、組合員135人が参加して開催し、生協の産直と生産者の努力への理解が広がりました。また「秋のコープのつどい」では、参加した組合員が産地の様子や商品のよさを伝えるなどの役割を果たしました。

「業務確認会」は、店舗やミートセンターなど9事業所で、50人の組合員・生産者が参加して開催し、生協が産直品のよさをきちんと伝えて供給しているかを確認してもらいました。



いわい農産研究会（一関市・平泉町）の公開安全確認会には、一関コープの組合員が参加しました。

「産直米交流会」を4つの産地で継続

「産直米交流会」を継続し、3つの産地の7企画にのべ213人が参加。田植えや田んぼの生き物観察、稲刈りまでを体験し、生産者の苦労や思い、産直品のよさを実感しました。

鈴木さん（花巻市）の田んぼでは、盛岡北コープ・盛岡中央コープの組合員が田植えに挑戦しました。



だれもが 安心して暮らせる 社会と地域をめざして

自治体や地域の団体・住民といっしょに
取り組みをすすめています。

増税中止を求める団体署名を 内閣府に提出

消費税増税に反対する運動として、「消費税増税をやめさせる被災3県協同アクション」「暮らしを考えるネットワークいわて」と共同し、増税中止を求める団体署名(150団体、3県で942団体)に取り組み、内閣府に届けました。この間の8%への増税は暮らしと地域経済に大きな打撃を与え、格差と貧困を広げています。10%への増税は「先送りではなく中止を」求めて、引き続き学習と運動を進めていきます。



2016年1月、組合員の代表が増税中止を求める団体署名を内閣府に提出しました。

脱原発・自然エネルギーへの 転換を求める運動

「原発事故を二度と起こさないためにも、エネルギー基本計画を撤回し、原発の再稼働、核燃料サイクル推進は中止すべき」といういわて生協の見解にそって、脱原発・自然エネルギーへの転換を求める運動を推進しました。県内の諸団体といっしょに「さようなら原発岩手県集会」(350人参加・内いわて生協57人)に取り組みました。



2015年4月、いわて生協も実行委員会に参加し、「さようなら原発岩手県集会」を開催。

TPP反対運動を諸団体と推進

「TPP大筋合意」を受けて、「TPP等と食料・農林水産業・地域経済を考える岩手県民会議」「いわて食・農ネット」といっしょに、合意内容の学習やTPP批准反対の街頭宣伝行動に取り組みました。

TPPが発効されれば、岩手の農林漁業と地域・経済はもちろんのこと、食の安全、医療、保険、雇用などにも大きな影響を与えます。引き続き学習と運動を多くの団体といっしょにすすめます。

子どもの医療費助成制度 16市町村で拡大を実現

県内の諸団体といっしょに、子どもの医療費助成制度の拡充を求める運動に取り組みました。2度の署名に取り組み、計1万7千筆の署名を集めました(全体では10万3,645筆)。この運動により、県内16市町村で助成対象が拡大されました。



2015年6月、達増拓也岩手県知事に署名を提出しました。

放射性物質の検査と 情報提供を継続

2015年度もアイコープ商品や産直品などの自主モニタリング検査を実施しました。185品目を検査し、放射性セシウムはすべて「検出限界値未満」でした(検出限界値は10ベクレル/kg)。検査結果については、ホームページ、共同購入でお知らせしました。2016年度は、252品目実施する計画です。

また、全国の生協と協力して「食事に含まれる放射性物質の摂取量調査」も、この5年継続して実施。岩手県・福島県を含む19都県の組合員263世帯(岩手県15世帯)を測定し、放射性セシウムは、2年続けて不検出でした(検出限界値は1ベクレル/kg)。



2012年から検査機器を導入し、検査を実施しています。

14市町で首長懇談会を開催

住みよい地域づくりをめざし、14市町で首長懇談会を開催。「高齢者が暮らしやすい地域づくりにむけて」をおもなテーマに懇談しました。



2015年12月21日、盛岡市との懇談会で。

首長懇談会を行った自治体（実施順）

盛岡市、大槌町、一関市、滝沢市、陸前高田市、宮古市、釜石市、奥州市、久慈市、花巻市、大船渡市、八幡平市、北上市、矢巾町

5年連続で「福祉灯油」を実現

灯油の適正価格と福祉灯油の継続・拡充を求め、岩手県議会に請願・要請行動を行いました。この取り組みにより、岩手県から沿岸12市町村への福祉灯油助成が決まり、実施されました。



2015年10月、岩手県議会に要請書を手渡しました。

「コープフードバンク」 岩手県内での提供を開始

「コープ東北」が運営する「コープフードバンク」では、お取引先企業から余剰食品の無償提供を受け、社会福祉に寄与する団体・組織などへ無償で提供する活動を行っています。2015年7月より岩手県内でも展開を開始し、2016年5月末までに、社会福協議会など6団体へ食品提供をスタートしました。フードバンク活動は、生活困窮者の支援につながるだけでなく、食品廃棄の抑制、環境負荷低減の効果も期待できます。

2016年4月、6例目となる北上市社会福祉協議会との締結式を開催。米、味噌などの第一便物資、約63kgを提供しました。



6つの団体・組織へ提供（2016年5月末現在・締結順）

宮古市社会福祉協議会、大船渡市社会福祉協議会、特定非営利活動法人くらしのサポーターズ、岩手保護院、花巻市社会福祉協議会、北上市社会福祉協議会

高齢者世帯へくらしのお役立ち 「高齢者見守り活動」を推進

共同購入や夕食宅配サービスなどを利用している高齢者を対象に、配達時に気になることや異変があった場合、自治体が指定する窓口へ連絡を行う「高齢者見守り活動」。2013年から協定締結を開始し、2015年度末までに29市町村と結びました。異変への対応事例はこの3年間で51件のほり、家族や行政から感謝されています。



2015年8月、八幡平市と調印。

29市町村と締結（2015年度末現在・締結順）

陸前高田市、大船渡市、住田町、盛岡市、久慈市、普代村、洋野町、花巻市、野田村、滝沢市、釜石市、紫波町、遠野市、奥州市、岩手町、西和賀町、田野畑村、大槌町、金ヶ崎町、葛巻町、矢巾町、二戸市、一戸町、九戸村、宮古市、八幡平市、一関市、軽米町、北上市

■2015年度自治体・関係団体への主な委員出席一覧

岩手県関係	岩手県食の安全安心委員会
	岩手県食育推進ネットワーク
	岩手県中山間地域等直接支払制度推進委員会
	岩手県水産審議会
	岩手県企業局経営評価委員会
	岩手県共同募金会分配委員会
岩手県万引防止対策協議会	
市町関係	盛岡市上下水道事業経営審議会
	盛岡市ごみ減量資源再利用推進会議
	盛岡市玉山区農業再生協議会
	滝沢市水道事業経営審議会
	北上市農業再生推進協議会
	栗石町地域水田農業推進協議会
	大船渡市農業改良普及センター外部評価委員会
	大船渡市ごみ減量等推進懇話会
	宮古市地産地消推進計画策定委員会
	宮古市廃棄物減量等推進審議会
	岩手県共同募金会宮古市募金委員会

平和な世界と 安心して暮らせる 地域をめざして

「助けあい、支えあい、ともしつくる
くらしの安心」をめざして、
組合員みんなで取り組みを
すすめています。

被爆・終戦70年 平和を守る運動を積極的に展開

被爆・終戦70年を機に、平和の大切さを知り、学び、
広げようと、「初夏のコープのつどい」や「平和憲法・9
条をまもる岩手の会」による大判チラシ（18万7千部配
布）などで学習をすすめました。また「平和声カード」
は5,115枚集まり、「子どもたちに平和な未来を」「震災
のときに助けてくれた自衛隊に武器を持たせたくない」
などの声が寄せられました。カードは県選出国議員（4
人）に手渡し、組合
員の思いを届けまし
た。

被爆・終戦70年、平和祈念
像「のぞみ」建立20周年を
記念して「平和のつどい」
を開催。平和を願う折鶴を
のぞみ像に飾りました。



夏休み「ピースアクション」は この5年間で最多の開催に

地域での「夏休みピースアクション」は、親子平和映
画会などで、平和の大切さを考えあいました。15コー
プで52企画に1,336人が参加し、この5年間では最多
の参加となりました。また、広島市での日本生協連主
催の「ピースア
クションinヒロシ
マ」には、8コー
プから10人の組
合員代表を、「沖
縄戦跡・基地めぐ
り」には理事2人
を派遣しました。



毎年、組合員の代表が原爆投下の地ヒロシマを訪
れ、被爆の実相を学んでいます。

「戦争ができる国」への動きに 反対する取り組みも積極的に推進

日本の集団的自衛権の行使を認める「安全保障関連
法」に反対する運動に取り組みました。強行採決に反対
する理事会声明を2度上げ、抗議文を賛成した党の党首
に送りました。また、全国で広がる「安全保障関連法廃
止をもとめる2,000万人署名」に、県内の諸団体といっ
しょに取り組み、5万2,278筆を集めました（岩手県
12万9千筆、全国1,200万筆）。



2016年4月23日には「戦争法ゼッ
タイ廃止!岩手県民集会」を
開催し、約500人が参加。集会後は
市内をデモ行進しました。

ユニセフ募金は636万円 26年間の累計では1億1,594万円に

2015年度のユニセフ募金は636万6,255円（2014年
度240万9,302円）でした。4月に発生したネパール大
地震を受けて、ユニセフ緊急支援募金を呼びかけたほ
か、「東ティモール指定募金」を中心にファミリー募金
や書き損じはがき募金、ハンド・イン・ハンド募金に取
り組みました。



「ネパール大地震ユニセフ緊急支援」では、
ベルフ牧野林で組合員有志による募金呼
びかけも行われました。

■2015年度ユニセフ募金

ネパール大地震緊急募金	387万2,079円
ファミリー募金(お年玉募金を含む)	155万 137円
書き損じはがき募金	49万8,061円
ハンド・イン・ハンド募金	39万 871円
店舗ペットボトルキャップ募金	5万5,107円
合計	636万6,255円
累計(1990~2015年度)	1億1,593万9,300円

大きく広がった 子育て世代の願いにそった活動

第7次中期計画にそって、子育て世代（特に乳幼児を持つママ）の願いにこたえた活動を2014年度からスタートし、この2年間で約7千人が参加するまでに広がりました。

ハピママコープ 3歳までの子育てママ対象の企画

2014年度にスタートした企画で、2015年度は要望に応え開催会場を増やしました。7店舗で156企画に1,027組2,221人が参加。リフレッシュとママどうしの交流の場として大好評です。



ベビーマッサージや手芸、コープ商品試食会のほか、お出かけ企画など、子育て世代の願いにそった活動を展開しています。

コープ子育てひろば 出入り自由で無料

親子の遊びの場として無料で開催し、2015年度は6店舗で135回開催し535組1,155人（2014年度5店舗122回に580組1,224人）が参加しました。



ポラン農業小学校

「農業体験を通じて、子どもたちに作物をつくる喜びや大変さ、自然のすばらしさを体験してほしい」と、JAいわて花巻と共同して1999年から開催。西和賀の自然の中でたくさん遊び、農作物を種から育て、収穫し、食べるまでの体験を行っています。2015年度は29人（2014年度22人）が参加し、一年を通して貴重な体験をしました。



米・野菜づくりを体験したほか、みそやウインナー作りにも挑戦。

「コープくらしの助け合いの会」 年間2万3千時間を超える活動

「困ったときはお互いさま」の気持ちをもとに1992年に発足した「コープくらしの助け合いの会」は、有償ボランティアの会員組織です。高齢者や産前産後の方などを対象に、家事・生活援助を行っています。会員数は県内10支部で1,229人で、活動時間は2万3,564時間と前年よりわずかに減少しました。また、被災した会員への支援として、2015年度も年会費免除（76人）、活動費免除（12時間）を行いました。



掃除や洗濯、調理などの家事援助のほか、犬の散歩などの手伝いも。

「ふれあいお茶っこ会」は153回 「ふれあいサロン」は35回開催

「ふれあいお茶っこ会」は、盛岡医療生協と共同で開催するミニデイサービスで、1999年にスタート。2015年度は、盛岡地域の16会場で153回開催し、約2,045人が参加しました。1回300円の参加費で、血圧測定やレクリエーション、昼食など、楽しい時間を過ごしています。

「ふれあいサロン」は、気軽に立ち寄ってお茶を飲んでおしゃべりしたり、ちょっと一息つける場として盛岡3会場で35回開催し、約531人が参加しました。

※被災地での「ふれあいサロン」については本誌4ページをご覧ください。

より多くの組合員の参加で運営

「初夏のコープのつどい」は1,821か所に6,555人が参加、「秋のコープのつどい」は5,753人が参加、「お茶会」は1,145か所で開催し4,138人が参加しました。計画づくりの場である「コープ懇談会」には2,499人が参加し、こうした話し合いの場への組合員参加は約2万4,566人となり、運営や計画づくりに多くの意見・要望をいやすことができました。



「コープ懇談会」では、グループに分かれて、来年度計画への期待や要望を出し合いました。

店舗事業・共同購入事業

「2020年ビジョン」のもと、「ふだんの暮らしに役立つ事業」をすすめています。

店舗事業

「第7次中期計画」にそって 新店「コープ花巻あうる」オープン

「第7次中期計画」で2つめの新店となる「コープ花巻あうる」を、2015年7月にオープンしました。花巻地域では、新店を成功させようと、地域訪問活動や加入特別窓口、「加入・紹介キャンペーン」などに組合員といっしょに取り組み、1年間で4,673人が加入。花巻市の世帯加入率は2015年度末に37%（オープン前は26%）になりました。



千人以上が来店しました。オープンから3日間で、1万5

県内初「スピードレジ」を導入。 11店舗に拡大

商品登録やポイント加算、クレジットカードでの会計などはレジ担当が行い、現金での支払いのみを組合員が行う「スピードレジ」を県内で初めて導入し、2015年度は11店舗に拡大しました（これまで通りのレジも利用できます）。このほか、カット野菜の外部委託、加工部の生産拡大など、店舗作業の削減をすすめました。



「セルフレジ」よりは簡単で、レジの待ち時間が短くなってうれしい」と好評です。

高齢者への買い物支援を強化

「無料お買い物バス」「お買い物配達サービス」

「無料お買い物バス」は、盛岡地域（6店舗で運行）は移動時間が短くなるようコースを全面的に見直し、3万200人（2014年3万5千人）の利用でした。宮古・山田地域の無料バスと、マリンコープドラと宮古駅間のシャトルバスも加えた年間利用は8万9,760人（2014年度8万6,900人）でした。



盛岡地域は移動時間が短くなるようコースを見直しました。

「お買い物配達サービス」も、全店で年間4万600人（2014年度3万8,300人）と、利用が増えています。

「サービス・ケア・アテンダント」資格取得者が36人に

店舗のユニバーサルサービス向上を目的に、店舗サービス部門で取得をすすめている介助技術資格「サービス・ケア・アテンダント」。2015年度は、新たに13人が取得し、36人となりました。

店舗はリサイクル活動の拠点

いわて生協の店舗は回収品目が多く、組合員のリサイクル活動の拠点となっています。2015年度は組合員へのリサイクルへの参加よびかけを強化し、年間回収量総計は835トン（2014年度625トン）と前年度より増えました。古紙回収システム「エコチェン」は新たに1店舗に導入し5店舗となりました。



リサイクル活動は、子どもの身近な環境教育にもなります。

1万1,344件

「組合員の声」を日常の仕事改善に

お店の売り場などで組合員から出された、商品や店舗運営に関する声を「声の記録」で集約し、日常の仕事改善にいかしています。2015年度は1万1,344件（2014年度1万1,337件）の声が寄せられました。

■2015年度「組合員の声」実績

（単位：件）

区分	2015年度	2014年度	増減
意見・要望	4,592	3,414	1,178
お問い合わせ	4,224	5,042	-818
おほめ・感謝の声	1,445	1,822	-377
商品・運営に関する苦情	1,025	948	77
その他	58	111	-53
合計	1万1,344	1万1,337	7

共同購入事業

毎週の利用者が6万9千人に伸長

共同購入は、商品案内チラシを見て注文していただき、翌週お届けする供給事業です。2015年度は毎週の利用人数（OCR発行）が6万9千人を突破し、県内世帯加入率は13.7%となりました。共同購入をさらに広げる基盤整備として、花北センターを花巻市（石鳥谷町）から北上市に増床移転しました。

また、インターネットサービス「eフレンズ」は、登録者は1万9千人（前年比105.7%）、インターネット注文の実利用者は週平均1,688人に増えたほか、「簡単タブレット」の取り扱いも開始しました。



組合員が組合員へタブレットの使い方を教える「タブレット先生」になるための学習会も開催しています。

「個配優遇制度」で 子育て世帯や被災者を応援

個配優遇制度は、赤ちゃんがいる方や高齢者、障がいのある方などを対象に、個人宅配の配達手数料を1回93円（通常223円・いずれも税抜価格）にしています。「子育てサポート値引き」は新たに1,572人が加入し、子育て世帯の利用者を着実に増やしました。また、被災地を対象にした「復興支援サービス」は、沿岸を中心に374人増えました。制度全体の登録者数は2万6,316人となり、個人宅配登録者に占める割合は61.4%になりました。



■個配優遇制度の登録人数と個配登録者に占める割合

個配優遇制度	登録人数(人)	割合(%)
高齢者サポート値引き 70歳以上の単身の方、または夫婦世帯で一方が70歳以上	8,813	20.6
復興支援サービス 宮古市田老、山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市の方。また、り災証明をお持ちのご家庭	6,429	15.0
子育てサポート値引き 母子手帳が発行されてから満6歳までの子どもがいる方	5,046	11.8
障がい者サポート値引き 障がい者手帳をお持ちの方がいるご家庭	3,956	9.2
介護者サポート値引き 介護認定を受けている方がいるご家庭	2,072	4.8
合計	2万6,316 (前年度比+1,612)	61.4 (前年度比+0.2)

夕食宅配サービスは 毎日1,354食をお届け

事業開始3年目の「夕食宅配サービス」は、要望の多かった宮古市でのサービスを開始しました。配達エリアは11市町に広がり、1日の利用者は1,070人、1,354食（2014年度814人、1,030食）に増えました。土・日・祝日の代替メニューや年末のおせち料理のご案内をし、大変喜ばれました。



夕食弁当といっしょに、笑顔もお届けしています。



利用者・ご家族からの感謝の声

- お月見に合わせたみたらし団子。献立を考える人の気遣いを感じました。
- いつもおいしいですね！毎日いろいろな食材と味で楽しんでいます。利用を始めてから「色が良くなった」と言われるようになりました。
- 県外に住む娘の手伝いに行くことになり、留守番の主人とお姑さん用に2食お願いすることにしました。主人は帰りが遅く、お姑さんに負担をかけたくない思いでしたので、これで安心して娘のところにいきます。
- 夕食宅配が休みだととても不便なので、連休ごとに案内してくれる冷凍弁当は助かっています。

環境負荷低減の取り組み

「毎週届くチラシがもったいない」との声を受けて1997年に開始した、共同購入チラシの回収リサイクル。回収したチラシは「アイコーブわたしたちのリサイクルトイレットロール」（一関市・上山製紙製造）の原料になっています。2015年度は2,925トン（前年比102.2%）を回収しました。



2,925トン回収



約392万ロールに相当

共済、介護・福祉 葬祭事業、 住まいと暮らしのサービス

「2020年ビジョン」のもと、
「ふだんの暮らしに役立つ事業」を
すすめています。

介護・福祉事業

訪問介護のサービス提供時間が
1万6,358時間に

2015年度の総利用人数は5,540人（前年比101.8%）と低下に歯止めをかけましたが、居宅介護支援（ケアプラン作成）・訪問介護・福祉用具レンタルの3部門とも計画を達成できませんでした。訪問介護のサービス提供時間は、1万6,358時間（前年比103.9%）に増えました。福祉相談受付は192件（2014年度143件）と大幅に増加。福祉用具の利用・購入、ケアプラン依頼、認定手続の相談などが多く寄せられました。

■部門ごとの利用者数

部門	利用者数	前年比
居宅介護支援(ケアプラン作成)	2,476人	106.3%
訪問介護	1,186人	98.9%
福祉用具レンタル	1,878人	98.1%

「困った時のお助けブック」を 改訂・普及

福祉分野にかかわる部署や組合員の委員会、関係団体でつくる「あい委員会」では、活動の交流をすすめ、災害時高齢者生活支援講習、介護保険制度の学習に取り組みました。

また、いわて生協の「暮らし支援」の活動と事業を紹介する「困った時のお助けブック」（盛岡地域が対象）を改訂しました。



「コープ暮らしの助け合いの会」や「夕食宅配サービス」「無料お買い物バス」などを紹介しています。

共済事業

9千件の加入で
保有件数は10万6千件に

満期継続の取り組みを強め、解約する方が減りました。年間の新規加入は9,077件と前年を下回りましたが、保有件数は10万6,346件と前年を上回りました。共同購入では、満期者へ感謝状を贈る取り組みなどを行い、店舗では「コープ花巻あうる」に、いわて生協で初めて独立型の共済カウンターを設置しました。

また、希望のあった県内237小学校の7,572人の新入学児童へ「コープすけのイラスト入りランドセルカバー」を贈呈しました。2014年度からの取り組みで、「交通安全に役立っている」と感謝されています。



「コープすけ＝コープ共済」の認知度が向上しました。



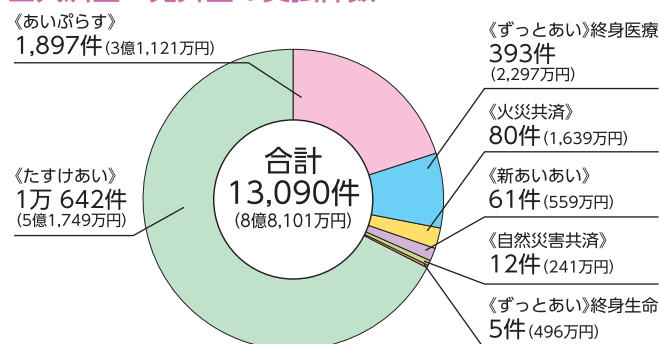
顧客満足度3年連続1位に

コープ共済は、全国での加入者が837万件に広がり、利用者からの評価であるJCS | 日本版顧客満足度調査の生命保険部門で、「顧客満足度3年連続1位」を獲得しました。

■共済保有件数（2016年3月20日現在）

種類	2015年度	2014年度	保有前年比
《たすけあい》	6万6,463件	6万7,403件	98.6%
《あいがらす》	2万9,217件	2万8,476件	102.6%
《ずっとあい》終身生命	964件	759件	127.0%
《ずっとあい》終身医療	4,424件	3,154件	140.3%
《火災共済》	4,942件	5,007件	98.7%
《新あいあい》 《あいあい》	336件	361件	93.1%
合計	10万6,346件	10万5,160件	101.1%

■共済金・見舞金の支払件数（2015年度）



葬祭事業

- 葬祭会館は8ホールとなり
- 施行件数は1,100件に

いわて生協の葬祭事業は、「人生の最後の儀式だからこそ自分たちがつくる生協で」「納得できる適正な価格で」という組合員の願いから生まれ、93年度から事業を開始しました。「第7次中期計画」では、高齢化がすすむ中で組合員の要望が高まっているセリオホール（葬祭会館）の建設を積極的にすすめてきました。2013年度に1館、2014年度に2館開設し、合計8ホールとなり、施行件数は1,099件と千件を超えるまでになりました。特に、ホールが増えた盛岡南・宮古地域では、利便性が向上し、施行が増えています。

「セリオ積立」も組合員活動といっしょにおすすめに取り組み、1万168件となりました。そのほか、エンディングノートの書き方講習会や相続税セミナーなど、組合員の要望にそった企画を開催し「役に立った」と好評でした。

また、2015年度には会館運営を円滑にするための本部機能として、葬祭部を設立しました。



いわて生協8館目の葬祭会館「セリオホール仙北」。少人数での通夜から最大200人での葬儀まで対応可能です。



ご喪家（遺族）の思いに伝えられるよう、担当するディレクターを窓口し、常勤者一丸となって精一杯のお手伝いをしています。

住まいと暮らしのサービス事業

- 暮らしの事業は提携が増え、
- 役立ち度がアップ

住まいと暮らしのサービスセンターは、2014年度から、暮らしのサービスを「コープ東北」統一の事業とし、サービスの幅が広がり、利用者も増えました。2015年度は新たに「クリーニング保管」「結婚式場紹介」サービスなどを提携。また、カード提示で特典が受けられる「コープフレンドショップ」に、「岩手サファリパーク」「岩手県立美術館」が加わり組合員への役立ち度が高まっています。

共同購入でコープ東北統一カタログを毎週発行しているほか、サービス内容をまとめた「お得なパスポート」も不定期で発行。



南昌荘創建130周年、いわて生協開館15周年

明治18年に建てられた南昌荘は、保存を望む多くの声に応じて、いわて生協が保有、維持管理と公開を行っています。盛岡市の「保護庭園」「保護建造物」の指定を受けており、庭園は2014年に県内3件目の国の「登録記念物」に認定されました。

多くの市民や組合員の安らぎの場所として、また様々な催し物の会場として利用されており、2015年度は「南昌荘創建130周年、いわて生協開館15周年、国登録記念物認定記念」の節目の年として取り組み、1万5,804人（前年比126%）が入園。累計来園者数は、26万6,064人となっています。



「南昌荘のひなまつり」は、「希望郷いわて国体・希望郷いわて大会文化プログラム事業」にも認定され来場者が増えました。



明治18年頃、盛岡出身の実業家瀬川安五郎の邸宅として建てられました。

- 休館日／月・火曜日 年末年始
- 開館時間／10時～17時（12月～3月は16時閉館）
- 入園料／大人200円 小・中学生100円（税込）